

令和5年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和6年7月26日

学校法人 宮地学園

幼稚園型認定こども園 杉の子せと幼稚園

当園では学校評価として、教職員の自己評価と学校関係者評価を実施いたしました。教職員一人一人が、自らの教育活動や園運営の状況を振り返ることで、自分自身や園全体を見つめ直すよい機会となりました。また、それぞれの評価結果について、皆で話し合うことにより、成果や今後の課題、改善の方向性などを明らかにすることができました。この結果を深く受けとめ、更なる教育活動の充実、教育環境の整備、教職員の資質向上に努めてまいります。

1. 本園の教育目標

教育方針：「笑顔いっぱいの杉の子せと幼稚園！！」

教育目標：1. つよく・かしこく・たくましい子どもの育成。

2. 感性豊かなおもいやりのある子どもの育成。

望ましい子どもの姿：「自分の力で、仲良く、元気に、もうひと頑張りする子。」

2. 本年度重点目標・計画

子ども・保護者・教職員全員が笑顔で過ごせる”チームせと”をめざす。

・教育課程の改善：行事や教育・保育をその都度検討・協議し、幼稚園教育要領が示す10の姿も踏まえた保育計画に見直しを図り、環境設定を行う。実践を大切にし、子どもの成長を促す援助方法を探る。放送教育を取り入れ、教育・保育の質の向上を図る。

・職員の資質向上：職員間の話し合いの充実を計るため、職員会のあり方を研究する。公開保育の実施と職員会や学年会等を通しての情報交換を活発に行い、子ども理解やスキルアップを図る。

・特別支援教育の充実：関係機関との関係や教職員間の連携を深めながら支援の必要な子どもに寄り添える指導・支援を行う。

・安全管理体制の強化：アレルギー対応を含む安全で安心の給食環境を作る。地震発生時の対応も常に意識し、園内で一つの命も失わない避難訓練を行う。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	教育課程を見直し改善を図る	A	・教育・保育活動の「反省、振り返り、評価」を重視した教育・保育実践に務め、子どもが笑顔で主体的に成長することを目指した。その結果、「反省、振り返り、評価」が、日々の教育・保育実践に定着するようになり、主体的な活動に取り組む園児の姿が多く見受けられるようになってきた。
2	職員の資質向上(研修・情報共有等)	B	・園の特色を生かした保育環境と保育内容を様々な角度から提案、議論するため、“語り合い”の時間を設けた。誰でも活発に意見が出せるよう工夫することで、新しいアイデアや情報を試してみようというチャレンジする姿勢が生まれ、保育の発展につながっている。

3	特別支援教育のための園内支援体制を整備する (家庭との協力・連携も含む)	A	・特別な支援のいる園児一人一人の理解に努め、その子にあった対応や援助を探り出している。そして、全職員が共通理解を図ったうえで、協力しての指導・援助ができています。また、発育・発達で困ったことがあれば、その都度、全職員で話し合いをもつと共に関係機関とも連携を取り解決策を模索するように務めている。
4	安全管理体制の強化	B	・アレルギー対応では、保護者と連携を取りながら可能な限りの個別対応を行っている。また、配膳を工夫したり担任、副担任の複数の目でチェックをしたりすることで、安全な給食の提供ができる体制を作ってきた。年間計画に基づき避難訓練が実施できた。

評価の基準 (A：十分達成されている。 B：達成されている。 C：取組まれているが、成果が十分でない。 D：取り組みが不十分である。)

4. 総合的な評価結果

評価	理 由
B	4つの評価項目について重点的に取り組み、一人一人の乳幼児を大切にした質の高い教育・保育を実践することができたし、さらなる質の向上に向けた課題も明確になった。

評価の基準 (A：十分達成されている。 B：達成されている。 C：取組まれているが、成果が十分でない。 D：取り組みが不十分である。)

5. 今後取り組むべき課題

	課 題	具体的な取り組み方法
1	教育内容	“語り合い”の効果が始め、職員のより良い保育、環境構成の工夫への意識が高まっている。これが負担にならないように続けていけるようにする。
		幼稚園部、保育園部の公開保育を核にし、教育実践のねらいに対する観点で研究協議を行い、保育者個々のスキルアップを図っていく。今後も、教職員のスキルアップのために研修交流と情報共有を大切にしていきたい。
		担任中心の子ども把握や理解が多いので、教職員間の情報交換を活発に行う必要がある。担任だけでなく、全職員がすべての子どもに係わり、把握や理解するように務める。また、特別な配慮を必要とする乳幼児の情報も全職員で共有し、共通理解を深めていく。
		慣れや不注意から対応がなおざりにならないよう常に高い意識をもって、安全な給食環境を作るように心がける。また、地震発生時の対応も常に意識し、園内で一つの命も失わない行動がとれるように心がける。

6. 学校関係者の評価

<評議員/株式会社メディア・エーシー取締役会長>

「“語り合い”の時間を設けた」という部分が印象に残った。組織内におけるコミュニケーションの質と量の充実が最も重要、かつ難易度が高い問題である。一般企業においてもモチベーションを醸成するためや離職対策のために、定期的な個人面談を実施している企業は多いが、意外にストレスを感じてしまいがちである。教育や保育のレベルアップのために“語り合い”は注目に値する取り組みであると思われ、今後の成果が楽しみである。

<高知市立横浜新町小学校長>

幼稚園教育要領が示す10の姿を踏まえた保育及び環境設定を進め、子どもに寄り添いながらの保育活動を進められ一定の成果が見られる。“語り合い”の効果から、その教育活動の質の向上も伺える。本校としても、今後、保幼小の架け橋カリキュラムを進めながら、共に連携・協働を進めていきたい。

<あたご幼稚園長>

報告書の随所に「話し合い」「共有」「互いに刺激」といった職員間のチーム力に関わる文言が見られました。昨年度から、継続して「保育を語り合う」ということがなされ、いよいよ定着してきている様子を感じることができました。加えて『共有し全職員で全園児を育てていく』という強い意志が、今や、杉の子学園教育の根幹になっているようにも感じられました。子どもたちは、多くの目で見守られている安心感が基盤にあるからこそ、主体的に活動していけるのだと、常々思っています。その体制が見事に整った令和5年度であったことが推察されます。体験活動等もさぞかし意味深いものになったのではないのでしょうか。今後の課題に同僚性や協働性、信頼関係が打ち出されていましたが、現在既に十分な力としてお持ちになっているように思われます。この力が、「つよく、かしこく、たくましく」といった教育理念を日常の活動へ具体化させていく作業に活かされると、多くのことが線で繋がっていくのではないだろうかと期待してしまいます。

<令和5年度後援会長>

「笑顔いっぱいの子と幼稚園」をテーマに「自分の力で、仲良く、元気にもうひと頑張りする子を実現するために試行錯誤しながら日々保育活動に勤しんでくださっています。特に、避難訓練は子どもたちのプレッシャーも考慮した内容で定期的に行うという時にどういう行動をとればいいのか、瞬時に考える習慣が形成されています。日頃の訓練の賜物だと思います。これからも理想とする子どもの姿の実現に向けた保育活動に期待しています。